

寄贈図書リスト

新物理小辞典, 松田卓也 監修, 四六判, 461 頁, 1,900 円+税, (株)三省堂

ポストドクター問題, 国立教育政策研究所・日本物理学会キャリア支援センター, A5 判, 2,300 円+税, 世界思想社

月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

神奈川工科大学基礎・教養教育センター物理系列任期制教員

1. 准教授 1 名
2. (1) 基礎・教養教育センター物理系列, (2) 神奈川県厚木市
3. 物理学または物理学を応用する分野
4. 力学, 電磁気学, 物理学実験などの物理系科目
5. (1) 2010 年 4 月
(2) 5 年ただし, 任期の更新または任期の定めのない教員への変更もありうる。
6. 博士号取得者 (取得見込みを含む)
7. (1) 履歴書, (2) 研究業績リスト, (3) 所属学会および社会における活動等, (4) 教育歴, (5) 教育に対する抱負, (6) 研究に対する抱負, (7) 推薦書, (8) 連絡先, (9) 主要論文の別刷
8. 2009 年 10 月 31 日 (土) 必着
9. (1) 〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野 1030 神奈川工科大学 「庶務担当部長気付 (物理系列) 教員選考委員会」
(2) 基礎・教養教育センター物理系列 教授 万代敏夫
Tel/Fax: 046-291-3076

e-mail: bandai@gen.kanagawa-it.ac.jp

10. 詳細は <http://www.kait.jp/topics/tp060615.shtml> を必ずご覧下さい。

国立天文台重力波プロジェクト助教

1. 助教 1 名
2. (1) 重力波プロジェクト推進室
(2) 東京都三鷹市
3. 重力波天文学
4. 重力波プロジェクト推進室では, 重力波の検出による重力波天文学の創成に向けて, 重力波検出用レーザー干渉計の高感度化のための開発研究を進めています。全国の関連研究者と共同して実現をめざす LCGT 計画の推進やその先の高感度化技術の開発, およびスペースからの低周波重力波検出用 DECIGO 計画の策定, などで現在のメンバーと協力して重力波天文学を展開するための研究を推進する助教を求めます。従来の研究分野は問いません。
5. (1) 採用決定後なるべく早い時期。
(2) 5 年。任期満了時に業績評価を行い, 任期のない助教となることが可能。
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上。
7. (1) 履歴書, (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト (査読論文とそれを区別し, 共著の主要論文には役割分担を記して下さい), (4) 主要論文のコピー, (5) 研究計画書, (6) 本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先, (7) 他薦の場合は推薦書のほかに, (1)~(5) の概要がわかる書類。
8. 2009 年 9 月 25 日 (金) 必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台台長 観山正見
(2) 国立天文台重力波プロジェクト推進室長

藤本真克 Tel: 0422-34-3622

e-mail: fujimoto.masa-katsu@nao.ac.jp

10. 封筒に「重力波プロジェクト助教応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。応募書類は、特に申し出がない限り返却しません。

国立天文台研究教育職員（天文シミュレーションプロジェクト）

1. 准教授 1 名
2. (1) 天文シミュレーションプロジェクト
(2) 東京都三鷹市
3. 天文学の理論的研究
4. 国立天文台の理論グループは、理論天文学の研究はもとより、観測研究とも連携した研究、さらに国内の理論天文学中核拠点の一つとして理論研究部/天文シミュレーションプロジェクトの運営、計算機システムの運用・共同利用の業務等を推進しています。この理論研究グループの准教授として研究を始めとする上記活動に貢献できる研究者を求めます。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
(2) なし
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 履歴書、(2) 研究歴（これまでの研究内容の概要を含む）、(3) 研究論文リスト（査読論文とそれを区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）および主要論文（3編以内）別刷、(4) 着任後の研究計画と抱負、(5) 本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先、または推薦書、(6) E-mail アドレス
8. 2009 年 9 月 25 日（金）必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 観山正見
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台 天文シミュレーションプロジェクト長 牧野淳一郎
Tel: 0422-34-3738
e-mail: makino@th.nao.ac.jp
10. 封筒の表に「天文シミュレーションプロジェクト准教授応募書類」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。選考は国立天文台運営会議で行います。

国立天文台研究教育職員（ALMA 推進室）

1. 教授または准教授 1 名
2. (1) 国立天文台 ALMA 推進室
(2) チリ
3. 観測天文学（ALMA プロジェクトの推進）
4. 国立天文台では、日米欧 3 極による国際プロジェクトである ALMA の建設を進めています。今回の公募では、電波望遠鏡システムおよび電波天文学に関する深い経験・造詣のもとに、チリ現地 ALMA 観測所の科学運用グループの中核となつて、ALMA プロジェクト、特にチリ現地での共同利用運用を強力に推進していただく研究者を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 博士の学位を有するか、またはそれと同等以上の方
7. (1) 希望する職名、(2) 履歴書、(3) 研究歴（個人としての研究業績の他に、多人数で行った研究・開発プロジェクトの経験があれば、その中で果たした業績を具体的に記入して下さい）、(4) 研究論文リスト（査読論文とそれを区別し、共著の場合は役割分担を記して下さい）、(5) 研究計画書、(6) 本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先、(7) 他薦の場合は推薦書の他に、(1)～(5) の概要が分かる書類
8. 2009 年 10 月 30 日（金）必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台台長 観山正見
(2) 問合せ先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台 ALMA 推進室長 立松健一
Tel: 0422-34-3815
e-mail: k.tatematsu@nao.ac.jp
10. 応募上の注意：封筒の表に「ALMA 人事応募書類」と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付してください。選考は国立天文台運営会議で行います。

研究助成

第 12 回大学婦人協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

趣 旨：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈

された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

対象：自然科学分野において、優れた研究成果を上げており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています。

授賞件数：年2件以内、賞状および副賞50万円を贈呈します。

提出書類：1. 研究題目とその概要および今後の展望と抱負を記したものを（A4判2頁以内）、2. 推薦状、3. 履歴書（写真添付）、4. 研究業績リスト、5. 主要な論文別刷5編以内、それぞれ3部（コピーでも可、返却せず）

応募締切日：2009年11月30日（月）（必着）

書類送付先・連絡先：社団法人大学婦人協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11-6-101

Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889

<http://www.jauw.org>

e-mail: jauw@jauw.org

研究会・集案案内

京都大学 花山天文台一般公開のお知らせ

京都大学花山天文台では、来たる10月24日に一般公開を行います。施設の公開・展示陳列と天体観望会を行い、また、ネットワークを経由して飛騨天文台で観測された天体画像をリアルタイムで上映します。花山・飛騨天文台で現在行われている最先端の天文学研究を、わかりやすく説明しますので、お気軽にお申し込み下さい。（入場無料）

（申込締切：9月30日（水））

〈一般公開〉

日時：2009年10月24日（土）13時～20時30分

場所：京都市山科区北花山大峰町 京都大学大学院理学研究科附属花山天文台

公開施設と内容：

花山天文台の主要な観測施設、研究施設などの公開および展示陳列。望遠鏡による天体観望。講演会。4次元デジタル宇宙シアター（国立天文台開発のミタカに、京大発のコンテンツを追加し、宇宙を立体視）。

太陽黒点スケッチや工作などの各種体験コーナー。

講演会予定：

京都大学理学研究科附属天文台教員による太陽や宇宙に関する講演会

タイトルや時間は天文台ホームページに掲載予定

天体観望詳細：

〈昼〉 18 cm 屈折望遠鏡による太陽像観望。70 cm シーロスタット望遠鏡による分光スペクトル観望。太陽黒点スケッチの実習。

飛騨天文台で観測された太陽像のネットワークによるリアルタイム上映。

〈夜〉 45 cm 屈折望遠鏡（小学生以上：定員100名/抽選）や小望遠鏡による天体観望（月や木星）。

〈交通機関〉

京都市営地下鉄東西線蹴上駅（1番出口）より徒歩30分、蹴上駅-花山天文台間はシャトルバス（300円（往復））を運行します。

または、京阪三条駅よりタクシー約10分（約1,300円）。

自家用車でもお越し頂けますが、駐車場の数に限りがありますので、なるべくシャトルバスをご利用下さい。

シャトルワゴン運行時間

天文台行き：13:00から19:30まで随時

蹴上駅行き：21:00まで随時

予想待ち時間：10分から15分（交通事情による）

〈申込方法〉

往復ハガキまたは電子メール（e-mail）での事前申し込みが必要です。

締切：9月30日（水）必着

氏名（ふりがな）、連絡先（住所、電話番号、E-mail アドレス）、45 cm 屈折望遠鏡による観望の希望有無を書いて申し込んで下さい。

（団体の場合は代表者の連絡先のほかに、見学者の総数（5名まで）と各人の氏名も記入）

定員：先着500名（45 cm 屈折望遠鏡による観望は抽選100名/対象年齢：小学生以上）抽選結果は10月上旬に返信します。

〈宛先〉

〒607-8471 京都市山科区北花山大峰町 京都大学花山天文台

Tel: 075-581-1235 Fax: 075-593-9617

e-mail: open2009@kwasan.kyoto-u.ac.jp

e-mail の場合、件名を「10/24 一般公開申込」として下さい。

一般公開ホームページ

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/open/>

〈主催〉 京都大学大学院理学研究科附属天文台, NPO
法人花山星空ネットワーク
〈後援〉 京都府教育委員会, 京都市教育委員会, 世界
天文年 2009 日本委員会

第 1 回日本放射光学会 放射光基礎講習会 「先端研究開発ツールとしての放射光利用術」 開催要項

日 時: 平成 21 年 9 月 7 日 (月) 9:30~17:30 (講習会)
18:00~20:00 (交流会)

会 場: 東京大学 本郷キャンパス 工学部
6 号館 63 講義室 (東京都文京区本郷)

主 催: 日本放射光学会

共 催: 大阪大学蛋白質研究所, 高エネルギー加速器
研究機構放射光科学研究施設, 高輝度光科学
研究センター, ほか

基礎講習会の概要:

日本放射光学会は, 我が国の各放射光施設および
ユーザ団体と協力して, 放射光科学の裾野の拡大と,
放射光科学入門者に向けた放射光基礎教育の充実を目
的とした放射光基礎講習会を開催いたします。

本講習会では, 放射光という研究ツールを新たに利
用して研究や開発を始めようとしている学生・研究者
の皆さんが, その特性を有効に活用して研究・開発を
進めるために必要な放射光の原理・基盤技術を学びま
す。さらに, 本講習会で最先端の研究ツールとしての
放射光の特徴やその応用例を紹介することによっ
て, 他分野の研究者にも放射光利用研究の具体的なア
イデアを提供します。

放射光の基礎を学ぶ機会として, “放射光について
もっと知りたい”, “放射光で何ができるのかを知りたい”
とお考えの皆様は是非ご参加下さい。また, “放射
光をさらに活かした研究・開発を進めたい”とお考え
の皆様も大歓迎です。

参加予定者: 50 名 (予定)

参加費: 2,000 円 (テキスト代を含む)

交流会参加費: 3,000 円

参加申込方法: 日本放射光学会ホームページ (<http://www.jssrr.jp>) を通して申込を行って下さい。

会務案内

【理事会議事録】

日 時: 2009 年 6 月 13 日 (土) 13:05~17:15

場 所: 八重洲ホール 5F 512 室

出席者: 國枝, 柴田, 渡邊, 竹田, 高田, 田代, 田村,
堂谷, 児玉, 本間, 半田, 小川, 藤沢, 小嶋,
藤本 (以上 15 名)

欠席者: なし

また, 東條事務長と宮下次期事務長が出席し
た。議事に先立って議長と署名人の確認がな
された。

議 長: 國枝秀世

署名人: 高田唯史, 竹田洋一

報 告

1. 前回議事録の確認

資料 1 に基づいて前回 (2009 年 3 月 25 日) の
理事会議事録が報告・確認された。

2. 秋季年会について

次回 2009 年秋季年会 (山口大: 9 月 14~16 日)
の責任者である藤沢年会開催地理事より準備の進
捗状況が報告された。おおむね順調に進んでいる。
講演会 (9 月 12 日) の講師は決定 (戎崎氏,
松尾氏)。

大学キャンパスの会場費 (一般なら 80 万円必
要) を節約するために本年会は山口大学理学部の
後援名義で行うことにした。宿泊施設の不足が懸
念されていたがほぼ十分に確保できそうであり,
近日中に宿泊情報やアクセスの仕方を記したホーム
ページを公開する予定。

3. 今後の年会について

来年 2010 年の年会の準備状況の報告が小嶋
(広島大), 藤本 (金沢大) の各開催地理事よりな
された。2010 年春季年会 (広島大: 3 月 24-27 日)
は会場も押さえ済みで着々と準備は進んでいる。
公開講演会に併せて希望者に対して東広島天文台
見学ツアーも企画することにした。

2010 年秋季年会 (金沢大: 当面 9 月 22~24 日
の予定) は日程が大学の後期授業開始に近い時期
なのでその関係の行事と重なり合う可能性が出て
きた。今年の 10 月頃には状況がはっきりする見
込みだが場合によっては日程あるいは会場の変更
を余儀なくされるかもしれない。また, 再来年以
降の 2011 年と 2012 年の年会開催地が確定したこ
とが竹田庶務理事より報告された。2011 年春は筑
波大学, 2011 年秋は東北大学, 2012 年春は京都大
学, 2012 年秋は大分大学。

4. 正会員の新規入会申し込み書式

前回の理事会で, 正会員の入会資格が学生と一
般で二重基準になっている現状に鑑み, 「正会員
の入会希望者には, 申請書に入会目的を記入させ

たり、あるいは他の正会員の推薦を義務づけたりしてはどうか」と指摘があり、検討事項になっていた。それで実務理事と事務所職員の意見も踏まえて作られた新たな入会申請書案（正会員1名の紹介を義務づけることにして、その欄が作られた点のみが以前と異なる）が紹介され（資料2）それに対して意見の交換があった。

『紹介者』より『推薦者』のほうがよい」など申請書に併記された説明文の文言に関するいくつかの修正点の指摘があり、これらの点を取り入れて改訂版を作成する。次回の理事会で最終的に決定する予定。

5. 巡回展示について

全国5カ所を巡る日本天文学会共催の世界天文年の巡回展示会の皮切りとして先日スタートした上野の国立科学博物館での企画展（5月30日～7月20日）の様子が半田教育理事よりスライドで紹介された。たいへん好評で初日から3,000人以上の来客があった。この上野の会場では業者による有料音声ガイド（500円：学会にも収入の一部が入る）も実施されている。

6. 天文教育委員会報告

半田教育理事より教育委員会からの諸報告が資料3に基づいてなされた。秋季年会の天文教育フォーラムのテーマは「学会によるアウトリーチ支援のあり方」に決まり講師を選定中〔注：6/20までに、戒崎（理化学研究所）、黒田（西はりま天文台公園）、千頭（鹿屋高校）、原（日本地球惑星科学連合）の各氏に決定〕。今後三回の年会における公開講演会の準備状況についての報告。世界天文年で講師派遣の申し込みが増えてきたこともあり、これまでの講師派遣プロジェクトを発展的に解消し、改めて「講師紹介プログラム」として模様替えして新たな体制で再発足させる方向で準備中。

7. 七夕における一斉講演会イベントについて

3月の評議員会で提案されて急速に話が進み実現化した「7月7日の七夕の日の頃に全国で一般向けの天文の講演会を集中的に実施する企画」の進捗状況が、実行委員長の柴田副理事長より報告された。現時点で全国32都道府県の82カ所の会場で100人を超す講師による講演が確定しており、数千人規模の聴衆が見込まれる、これまでになかった規模の全国的な天文イベントになる模様。ポスターも完成している。複数の会場での講演の様子はインターネットで中継もなされる予定。（なおこの企画については理事会に先立ち本

会場で記者発表も行った。）

8. その他

8.1 衛星設計コンテスト委員会委員の交代

衛星設計コンテスト委員の井上 允氏が本年度から外国に転任されたことにより委員を辞任されたので、その後任として上野宗孝氏（JAXA）が新たな委員に就任されたことが竹田庶務理事より報告された。

8.2 次期事務長について

本年一杯で定年退職される天文学会事務所の現事務長の東條氏の後任事務長が、公募による選考でこの3月で国立天文台を退職された宮下暁彦氏に決まり引き継ぎのためにすでに本年5月から勤務しておられることが竹田庶務理事より報告され、本日この場に出席されている宮下氏から挨拶があった。

8.3 理事長公選制の検討について

これまでの天文学会理事長の選出過程（慣例で現執行部が現副理事長を含めて候補者を提案、理事会・評議員会で推薦、総会で承認）には候補者の選定が限られた狭い範囲になりがちで各会員の関与の度合いが薄いので、この問題点の改善のために、「会員が直接公選で理事長を選び、副理事長や各理事などの実務体制はその理事長を中心にして組織される」という公選制度の導入を検討していることが國枝理事長から報告され、物理学会や惑星学会などの他の学会の場合での長の選出過程の状況の説明、議論のたたき台としての試案（広く会員から募った候補者に対して会員の投票で決定）の紹介がなされた。それに対して、評議員会の役割と関係、被推薦者の意志の有無の確認、候補者の推薦がなかった場合にはどうするのか、などいろいろな意見の交換があった。

さらに案を煮詰めて今後の理事会・評議員会でも議論を継続する。もし最終的に合意が得られて制度が確立すれば、早ければ来年にも選挙を実施して2011年からの次期理事長を選出することをめざしたい。

議 題

1. 2010年度事業計画書案

2010年度事業計画書案について、竹田庶務理事より資料4に基づいて説明が行われた。説明が足りない部分や一部の語句の不適切な点が指摘され、これらの点の修正を行うことにして承認された。百周年記念出版委員会が2010年度にも存在していることについて質問があったが、現時点ではまだ完結していない事業でもあり、そのまま計

画書案に入れることになった。

2. 2010 年度収支予算書案

2010 年度収支予算書案について、田代会計理事より資料 5 に基づき一般会計と特別会計それぞれについて説明が行われ、承認された。事業に相当すると見られるいくつかの項目が管理費に入っていることについて質問があり、三大事業以外の事業についてはこういう形で組み込むことになっているとの回答があったが、今後はもっとわかりやすくすることも必要であろうとの認識も示された。また予算に関連する話題として来年度の事務所職員の勤務形態や人件費の見通しについても言及があった。

3. 新入会員の承認

資料 6 に基づき、新規入会予定者（会員種別の異動者も含む）のリストが示され全員承認された。また併せて退会する会員も報告された。なお、今年から退会者と（会費未納による）除名者を区別して天文月報上で公表することになったことに関連して「世界的に著名な会員が除名になったことを知って驚いた」との意見が会員から出ているとの報告があり、意見の交換があったが、おおむね「催促にもかかわらず会費の納入がなされない以上特別扱いはできないだろう」という見解で一致した。

4. 会費に関する細則の改訂

田代会計理事より資料 7 に基づき会費に関する細則改訂案が示された。現行の（年度末に次年度の会費を納入する）やりかたでは多大の内部留保を有することになって新たに制定された法律に抵触することになるので、支払時期をずらせて年度開始後の 3 カ月以内（1, 2, 3 月）に納入することにするものである。また、併せて会費納入を遅延した場合に課せられる付加料金の呼び方をこれまでの「延滞金」から「事務手数料」に変更することにした。出席者からはさまざまなケースに関して質問が出されて問題点も指摘されたが、（移行期の混乱を極力抑えるべく）準備周到な事前の告知をすることと納入請求の際の案内に十分配慮するという条件の下に承認された。

5. 研究奨励賞内規の変更

竹田庶務理事より、資料 8 に基づき、石田研究奨励賞選考委員長から「委員の数を現行の 5 名から 1 名増やして 6 名にしたい」（より広い分野をカバーするため）との要望が出されたことについて説明があった。

これは内規の変更を行う必要があるので最終的

には評議員会で承認されないといけないのであるが、特に問題はないので、評議員会にそのまま提出することが認められた。

6. 休会制度の創設

田代会計理事より資料 9 に基づき、すでにこれまでの理事会で話題に挙げているように、病気や留学などの正当な理由がある場合は 2 年を上限として会員活動を一時的に停止できて会員番号は復帰したらそのまま継続できる休会制度を正式に設けることにしたのでその申請のための書式（休会届と復会届）の案が紹介された。修正すべき細かな誤植の指摘はあったものの基本的にこの方針で承認された。この制度発足のことはホームページに記載して告知する方針であるが（書式もダウンロードできるようにする）、せっかく制度を作ったのであるから、もっと正式に（たとえば内規の中に）織り込むことも考えてはどうかとの意見も出された。

7. 秋季総会議題

竹田庶務理事より、資料 10 に基づき、来たる秋季総会で取り上げる予定の議題案（事業計画書、収支予算書、会費の細則改訂、新評議員メンバーの承認）と報告案（休会制度、研究奨励賞内規変更）が紹介された。報告にさらに世界天文年関連の項目を加えるだけで承認された。

8. その他

8.1 欧文研究報告編集委員 1 名の増員

堂谷 PASJ 理事より、特に電波天文関係の分野を補強する目的で新たに久野成夫氏（国立天文台）に編集委員に加わっていただくことが報告され、承認された。

8.2 天文月報編集委員を増員した件について

児玉月報理事より、月報編集委員会の委員については昨年秋季年会の際の総会で報告されたメンバーに加えて、マンパワー補強のために年度初めに浜名 崇氏（国立天文台）に入っていただいてスタートしていることが述べられた。

今回の理事会

今回の理事会は秋季年会の期間中に行われる（これまでの慣例では第一日目の 9 月 14 日の昼時になる予定）。

2009 年 7 月 6 日

議長 國枝秀世
署名人 高田唯史
署名人 竹田洋一

【評議員会議事録】

日 時：2009年6月27日（土）13時～17時

場 所：東京大学理学部4号館1320号室

出席者：井上，海部，柴田，須藤，中川，永田，宮川，
坂田，佐藤，杉山，谷口，筒井，望月（以上
13名）

書面表決状提出者：家，岡村，郷田，渡部，池内，
観山（以上6名）

欠席者：山田（以上1名）

他に國枝理事長，渡邊副理事長，竹田・高田庶務理事，
田代会計理事，東條事務長，宮下次期事務長が出席した。
議事に先立って議長と署名人の選出がなされた。

議 長：望月優子

署名人：海部宣男，井上 一

【報告】

1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて前回（2009年3月26日）の評
議員会議事録が報告・確認された。

2. 秋季年会について

竹田庶務理事より次回2009年秋季年会（山口大：
9月14～16日）の準備の進捗状況が報告された。
おおむね順調に進んでいる。講演会（9月12日）
の講師は決定（開催地山口に関連の深い戎崎氏，
松尾氏）。

大学キャンパスの会場費（一般なら80万円必
要）を節約するために本年秋季年会は山口大学理
学部の後援名義で行うことにした。不足が懸念さ
れていた宿泊施設については特に問題はなさそう
であるが，温泉町で観光シーズンでもあるので極
力早めの予約が望まれている。

3. 今後の年会について

来年2010年の年会の準備状況が当日配付資料
「今後の年会について」に基づき竹田庶務理事
より報告された。2010年春季年会（広島大：3
月24～27日）は会場も確定し特に問題もなく準備
は進んでいる。公開講演会に併せて希望者に対
して東広島天文台の見学ツアーも企画することに
した。2010年秋季年会（金沢大：当面9月22～24
日の予定）は日程が大学の後期授業開始に近い時
期なので学生ガイダンスの行事と重なり合う可
能性が出てきたとのこと。したがって場合によ
っては日程あるいは会場の変更を余儀なくされ
るかもしれない（今年の10月頃には状況がは
っきりする見込み）。

また，再来年以降の2011年と2012年の年
会については開催地が決定したことが報告され
た。

2011年春は筑波大学，2011年秋は東北大学，
2012年春は京都大学，2012年秋は大分大学。

4. 正会員の新規入会申込書書式

正会員の入会資格が学生と一般で二重基準
になっている現状の改善に向けて検討課題とな
っていた正会員の入会に際する付加条件（申請
書に入会目的を記入させたり，あるいは会員の
推薦を義務づけたりするなど）については，実
務理事と事務所職員の意見も踏まえて，「推
薦者たる正会員1名の自筆の署名を必要とす
る」を新たに採用する方針に決め，その方向
で作られた新たな入会申請書案が資料2に基
づき竹田庶務理事より紹介された。これに対
しては，「これは単なる報告ではなく正式に議
題にしてきちんと承認してから実施するべき
ではないか」との意見が出されたので，改め
て次回の評議員会で議題にすることになった。
また，この書式の中にある個人情報名簿記載
の可否を選択させる項目については，「入会申
請書式では個人情報を書かせることはどうし
ても必要であるが，名簿への記載云々は別途
問うべきことがらであり切り離して考えるべ
きだ」との指摘が出され，この欄は削除して
「個人情報については入会手続き以外の目的
には使用いたしません」との記述を加える方
向で改訂案を作ることになった。

5. 巡回展示について

全国5カ所を巡る日本天文学会共催の世界
天文年の展示会の皮切りとして先日スタート
した上野の国立科学博物館での企画展（5
月30日～7月20日）の様子が國枝理事
長よりスライドを用いて紹介された（宣伝の
チラシが資料3）。これ以降は仙台～新潟～
大阪～名古屋と各地を巡回する。「この
企画は入館者も多く皆熱心に観覧しており
大いに成功している」と高く評価する意見
も出された。

6. 七夕における一斉講演会イベントについて

3月の評議員会で提案されて急速に話が
進み実現化した「7月7日の七夕の日の頃
に全国で一般向けの天文の講演会を集中
的に実施する企画」の進捗状況が，実行
委員長でもある柴田副理事長より報告され
た。（宣伝のチラシが資料4）呼びかけに
対してすぐに多くの機関から好意的な反
応があり，現在の時点で全国各地延べ91
カ所の会場で108人の講師による講演が
確定している。各種新聞でも報道されて
おり，6/13に京都新聞に掲載された
記事が追加資料として配布された。

7. 委員会委員の交代・増員

竹田庶務理事より資料5に基づいて委員
会委員の交代2件（前任者が外国に転任
するため）ならび

に増員2件（マンパワー補強目的のため）が以下のとおり報告された（敬称略）。

衛星設計コンテスト推進委員：

井上 允→上野宗孝（JAXA）

選挙管理委員：新井宏二→矢野太平（国立天文台）

欧文研究報告編集委員：久野成夫（国立天文台）

天文月報編集委員：浜名 崇（国立天文台）

8. その他

8.1 次期事務長について

本年一杯で定年退職される天文学会事務所の現事務長の東條氏の後任の事務長が、この3月で国立天文台を退職された宮下曉彦氏に決まり、正式な就任は2010年からであるが、引き継ぎのためにすでに本年5月から勤務しておられることが竹田庶務理事より報告された。本日この場に出席されている宮下氏からも簡単な挨拶があった。

8.2 評議員選挙の結果報告

任期が2010～2013年の第18期評議員候補者の選挙が5月20日～6月19日の期間で行われ、6月23日に開票されて以下の10名の方々が候補者として総会に提出されることが竹田庶務理事より報告された（敬称略）。

継続再任：岡村定矩，海部宣男，渡部潤一，

須藤 靖，井上 一。

新任：奥村幸子，伊藤紘子，劉 周強，牧島一夫，嶺重 慎。

また、若手の会から推薦されて選出される現役院生の若手評議員に関して「推薦者はどのように選ばれるのか、任期途中で就職した場合はどうなるのか」、などいくつか質疑応答があった。

8.3 100周年記念出版事業編集委員会報告

本日欠席の岡村氏（100周年記念出版事業編集委員長）に代わって竹田庶務理事より当日配付資料に基づき「シリーズ・現代の天文学」の刊行に関する進捗状況が報告された。現時点で未刊の3巻については第7巻「恒星」（7月17日配本）と第16巻「宇宙の観測 II—電波天文学」（8月中旬配本）については確定して、残すところは第11巻「天体物理学の基礎 I」のみになった。これは9月の配本を目指しているが首尾良く達成して全巻刊行をなるべく早急に達成したい。

8.4 年会期間中の各種会合のプログラム記載について

望月氏から、当日配付資料を基に、「年会中に開催される各種会合（委員会、光天連などの研究連絡会等）の開催日時や会場を（月報や予稿集に掲載される）年会プログラムに明記し、併せて一般参加の可否の情報（オープン化の程度）を明らかに

してはどうか」との提案があった。これによりどのような学会活動がなされているかということが関係者以外の会員にも明快になるばかりでなく、会合に一般参加者を募ることができるようになり、事前に参加計画を立てることも容易になるため、会合や会員間の意見交換をより活発化することが期待される。特に異論はなく、年会実行委員会とも連携を取ってこの方向で話を進めることになった。

8.5 男女共同参画活動、学術会議等の状況報告

海部氏より資料6に基づき日本学術会議主催男女共同参画シンポジウムにおける発表の報告がなされた。特に、天文学分野における女性研究者数の推移と日本における理工系人材の社会進出状況の欧州諸国との比較について説明があった。天文学会の女性会員は1980年代から急増が始まっており（理由はまだ不明）、現在は約12%を占めようやく我が国の他分野並になったこと、日本は男性優位（トップ層に女性が少ない）のみならず文系優位（中央官庁の上級ポストや政財界の指導者はほとんど文系が占めている）になっており人材利用ができていないことが指摘された。天文分野の統計については各大学の関係者の協力も仰いでデータを充実させて今後もっと詳しい分析を進めたい。

また学術会議の話題として、長期計画に関する第三部（理学・工学）のワーキンググループ立ち上げ、若手の育成を目指した若手研究者による組織の構築計画、などが報告された。これからんで大型計画に対するアンケートに関する質疑応答もなされた。

8.6 世界天文年関連の報告

当日配付資料に基づき、海部氏より世界天文年関連活動の各企画の進捗状況や経過の報告があった。日食グラスの普及、「君もガリレオ」プロジェクト、ガリレオ先生養成講座、星空ブックフェア、世界天文年セレクション（良質な天文関連商品の選抜）、まんが「ガリレオくんと仲間たち」、世界天文年エッセイ賞公募、など。また5月11-13日に開催された「アジアの星・宇宙の神話、伝説」国際ワークショップの様子も簡単に報告された。日本における星の神話・伝説は、本土には少なくむしろアイヌと沖縄に多いことは興味ある特徴として特筆される。

8.7 学会 Web ページの改善に向けて

國枝理事長から「現在の天文学会の Web ページは会員にとって必要な最低限の情報は提供してい

るが、会員以外へのもっと広い世界に対する情報発信という観点からは甚だ不十分なものとどまっている状況を鑑み、学会 Web サイトの抜本的な改善を目指して（方針を議論してできることから着手する）ワーキンググループを立ち上げたいので皆さんの協力をお願いしたい」との発言があった。これに対して、物理学会での実績や各大学での取り組みの例など、早速参考になる意見が出された。

8.8 理事長公選制について

現在の天文学会理事長の選出（慣例で現執行部が現副理事長を含めて候補者を提案、理事会・評議員会で推薦、総会で承認）においては候補者が狭い範囲からになりがちで各会員の意志が反映されにくいので、この問題点の改善するために、「会員が直接公選で理事長を選ぶ」公選制度の導入を検討していることが当日配付資料を基に國枝理事長から報告された。参考のために日本物理学会、日本惑星科学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、応用物理学会、その他の四種学会の場合での長の選出過程の状況も資料を基に紹介され、議論のたたき台としての試案（会員から推薦された候補者に対して会員の投票で決定）と実施するうえでの具体的な問題点（推薦の方法、被推薦者の意志の確認、理事会・評議員会の役割、選挙の方法、など）にも言及があった。

これに対して「候補者ははっきりした所信表明をして欲しい」、「現在の定款（評議員会で推薦された候補者を総会で承認する）と公選制はそぐわない（公選で選ばれた人を評議員会が推薦するとは限らない）」などいくつかの意見が出された。さらに案を煮詰めて今後の理事会・評議員会・総会でも報告し議論を継続することになった。

早ければ来年にも選挙を実施して2011年からの次期理事長を選出することを目標にしたい。

8.9 宇宙基本計画について

井上氏から、昨年制定された宇宙基本法に基づき、6月2日に宇宙基本計画が決定されたことが報告された。五つの利用システムと四つの研究開発プログラムが設定され、宇宙科学はその中の一つのプログラムとして置かれている。宇宙科学の立場から書き込んで欲しかった基本的な内容はほぼ組み込んでもらうことができた。

【議題】

1. 2010年度事業計画書案

2010年度事業計画書案について、竹田庶務理事より資料7に基づいて説明が行われ承認された。た

だ、理事会・評議員会の開催予定時期が実情にそぐわないものになっていることが指摘されたので、この点は改訂する。この計画書案の中の「民間の賞に対して学会から優れた研究者を推薦するように努める」という件に関して、「具体的にはどのような賞があるのか」との質問が出された（井上賞、東レ賞、朝日賞など）。

2. 2010年度収支予算書案

2010年度収支予算書案について、田代会計理事より資料8に基づき一般会計と特別会計それぞれについて説明が行われ、細かい内容（収支の明細、星座早見の収入、賛助会員の動向、寄付収入、など）についてのいくつかの質疑応答があった後、本案で承認された。

3. 会費に関する細則の改訂

田代会計理事より資料9に基づき会費に関する細則改訂案が示された。現行の（年度末に次年度の会費を納入する）やりかたでは多大の内部留保を有することになって不都合を生じるので、支払時期をずらせて年度開始後の3カ月以内（1, 2, 3月）に納入することにするものである。また、併せて会費納入を遅延した場合に課せられる付加料金の呼び方をこれまでの「延滞金」（主として税金の場合の用いられる言葉で利息に対応するもの）からより実情にふさわしい「事務手数料」に変更することにした。出席者からは、「入金を忘れて滞納になった場合、出版物が来なくなって気づいたときにはすでに付加手数料が発生しているのは気の毒ではないか」、「3月末までの納入にすると会計年度が3月末に変わったと誤解されるのではないか」、「3月の春の年会の受付の際に未納者をチェックして催促・徴収してはどうか」、などさまざまな意見も出されたが、本案で承認された。

4. 研究奨励賞内規の変更

竹田庶務理事より、資料10に基づき、石田研究奨励賞選考委員長から「より広い分野をカバーするために委員の数を現行の5名から1名増やして6名にしたい」との要望が出されたことについて説明があり、これに応ずるために内規において規定されている委員の数を5名から6名に変更することが提案され、了承された。

5. 休会制度の創設

竹田庶務理事より資料11に基づき、病気や留学などの正当な理由がある場合は2年を上限として会員活動を一時的に停止できて会費納入が免除される（tennetのメールだけは従来どおり受け取れるし会員番号は復帰したらそのまま継続できる）

休会制度を設ける試みが説明され、その申請のための書式（休会届と復会届）の案が紹介された。

「退会してまた入会することと実質的に同じことでないか」、「細かい事例に対する対処の手順が準備されていないのでは」、「たとえば精神的な疾患で休会する者にとっては診断書の提出を強く義務づけるのはプライバシーの観点からは酷ではないか」、などの点も指摘されたが、「とりあえずスタートさせてみてその結果問題点が出てきたら逐一検討して必要に応じて制度の内容を改善していく」ことで承認された。ただ実際に予測される事例に関する説明がまだ十分完備していないので「2年の満期が経過した時点でどうなるのか（基本的に自動的に復会の扱い）」などの補足事項を付記しておくことになった。

6. 秋季総会議題

竹田庶務理事より、資料12に基づき、来たる秋季総会で取り上げる予定の議題案（事業計画書、収支予算書、会費の細則改訂、新評議員メンバーの承認）と報告案（休会制度、研究奨励賞内規変更、世界天文年）が紹介された。報告の項目に関してさらに理事長公選制と学術会議関連の二つを加えることに承認された。

[次回の評議員会]

今回の評議員会は秋季年会の期間中に行われる（これまでの慣例では第二日目の9月15日の昼時になる予定）。

2009年7月14日

議長：望月優子 ㊟
署名人：海部宣男 ㊟
署名人：井上 一 ㊟

会務案内

2009年度日本天文学会 林 忠四郎賞受賞候補者および欧文研究報告論文賞受賞候補論文推薦のお願い

林 忠四郎賞選考委員会

標記の二つの賞について、受賞候補者と論文の推薦をお願いします。締切は両賞とも2009年11月10日（火）（必着）です。下に述べるそれぞれの要領に従って記入した推薦書を、〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会宛に郵送して下さい（論文賞についてはe-mailも可）。なお、封筒には「林 忠四郎賞候補推薦書」または「欧文研究報告論文賞候補

推薦書」と表記して下さい。特に返送等のお申し出がない限り、推薦書類は選考後に破棄します。授賞式は、両賞とも本学会の春季通常総会（2010年3月25日か26日、広島大学）にて行う予定です。

2009年度（第14回）林 忠四郎賞推薦要領

この賞は、林 忠四郎博士が1995年11月に第11回京都賞を授与されたのを記念し、「後進の天文学研究を奨励するため」として同博士が日本天文学会に寄付された金額を基金にして設定されたものです。

分野等：広い意味での天文学（天体物理学、宇宙物理学、他の関連テーマも含む）における独創的かつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授与する。
授賞件数：原則として各年に1件。

賞状等：本賞として賞状、副賞として賞牌（メダル）および賞金（30万円）。

推薦書の形式：表題は「2009年度林 忠四郎賞候補者推薦書」として下さい。A4サイズの用紙に、次の順序で横書きにして下さい。

- 1) 候補者（被推薦者、連名授賞可）について：氏名（ふりがな）、生年月日、大学卒業年、現職および連絡先（電話、Fax、e-mail）
- 2) 授賞対象とする研究の表題（英語表記も）
- 3) 推薦者について：氏名（ふりがな）、現職、連絡先（電話、Fax、e-mail）、被推薦者との関係
- 4) 推薦理由の要旨（300字以内）
- 5) 推薦理由
- 6) 関連する論文のリスト
- 7) 添付資料として、推薦に関連して最も重要な論文のコピー（3編以内）

2009年度（第14回）欧文研究報告論文賞推薦要領

この賞は、良い論文がPublications of the Astronomical Society of Japan (PASJ) に投稿・出版されるのを奨励するために設定したものです。なお、本賞の選考委員会は、林 忠四郎賞選考委員会が兼ねることになっています。

対象論文等：原則として過去5年以内にPublications of the Astronomical Society of Japan に出版された論文のうち、独創的で天文学分野に寄与の大きい、特に優れた論文の著者（共著の場合はすべての各共著者）に授与する。

授賞件数等：原則として1年に2件以内。賞状と副賞を授与する。

推薦書の形式：表題は「2009年度天文研究報告論文賞候補推薦書」として下さい。A4サイズの用紙（e-mailでも可）に、次の順序で横書きにして下さい。

- 1) 候補論文について：論文題目、筆頭著者名、出版された巻、ページ、発行年
- 2) 推薦理由（1,000字程度）
- 3) 推薦者について：氏名（ふりがな）、現職・連絡先（電話、Fax、e-mail）、被推薦者との関係
- 4) e-mailで応募する場合は jimu@asj.or.jp 宛に出して、受領した返事を必ずもらって下さい。

(3) 提出先：

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台内
日本天文学会研究奨励賞選考委員会

選考委員会では、推薦された方の中から、研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を評議員会に推薦します。

2009年度（第9回）天文功労賞候補者推薦のお願い

天体発見賞選考委員会

この賞は、近年多岐にわたっている研究機関外での天文活動、例えば長年の天体観測や、突発的な現象の検出や的確な通報などを、称賛し奨励するためのものです。賞の対象となる功績は、天体発見賞・発見功労賞の枠外となっている天文観測・研究活動全般です。対象者は、「天文研究を主たる業務としない」個人および団体で、日本天文学会の会員であるかどうかは問いません。選考は、天体発見賞選考委員会が行い、候補者を評議員会に推薦します。

天文学会の会員の方々からの候補者（団体）推薦を、広く募集します。A4紙1枚程度で、候補者（団体）名、功績名（1行程度）、功績の説明を書いていただき、日本天文学会事務所（〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内/Fax: 0422-31-5487/jimu@asj.or.jp）にお送り下さい。郵便・Fax・電子メールのいずれでも結構です。

推薦は随時受け付けておりますが、今回の選考に確実に乗せるには、2009年12月31日までににお送りいただくようお願いいたします。なにとぞ多数のご推薦をよろしくお願いいたします。

2009年度研究奨励賞（第21回）受賞候補者推薦のお願い

研究奨励賞選考委員会

本会は、優れた研究成果を上げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しています。受賞資格は

- 1) 日本天文学会正会員で、最近5年間における天文学への寄与が顕著なる者
- 2) 当該年度初日（本年度は2009年1月1日）で35歳以下の者であって、毎年3名以内を対象とし、賞状、賞牌（メダル）および賞金（10万円）を併せ授与しています。本年度の受賞候補者の推薦を以下の要領でお願いします。

- (1) 締切：2009年11月10日（火）必着
- (2) 提出書類：○候補者氏名、現職、生年月日、○授賞対象とする研究の表題（英語表記も）、○推薦者の氏名、現職、連絡先、○推薦理由（300文字程度の要旨とA4で2-3枚程度の本文）、○関連論文リスト、○推薦に関連して最も重要な論文のコピー（3編以内）

天文月報オンラインのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード：雑誌コード vol198 の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

児玉忠恭（編集長）、浅井 歩、柏川伸成、衣笠健三、鈴木 建、徂徠和夫、竹井 洋、野田寛大、浜名 崇、三好 真、山崎 了、吉田直紀

平成21年8月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社

定価700円（本体667円） 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務所）/0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2009年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）